

令和6年度 虐待防止委員会

令和6年9月30日

合同会社BRG

1 はじめに

今年度も外部研修にて虐待防止(基礎編・応用編)を2名の職員が受講しました。

弊社では役職者が研修を受講しその内容について復命書と資料にて社内で共有するのではなく、ある程度経験を積んだ職員については応用編、経験の満たない職員に関しては基礎編をローテーションで受講しながらその都度共有を行っています。そうすることでより一人ひとりが自分事として虐待に対する理解をより深められると考えております。

今期、上半期における事業所内での虐待事案はありませんでしたが、昨年同様に弊社所属のメンバーがご家族から虐待を受けている可能性があるとの情報を受け関係機関へ通報し対処した経緯がございましたのでご報告いたします。

2 現状報告

令和6年7月18日に家庭内において施設ご利用者に対する同居家族からの虐待事案が確認される。弊社にて本人への聞き取りを行い相談支援事業所及び市の障がい福祉課へ通報。

【内容】

作業中、担当職員が左まぶたの腫れと青あざを発見し、本人に確認したところ同居する兄(長男)に殴られたと話がありBRGサビ管に報告。サビ管より状況を確認した後、本人の了承を得て奥州市障がい福祉課へ通報し、患部の写真と共に報告書を提出する。

本人より特に殴られる理由に心当たりはなく、その日の機嫌であったり格闘技を見てエキサイトした延長で暴力を振るわれることがこれまでも多くあったとの事。(暴力に抵抗すると、エスカレートするため無抵抗で暴力を受けており、これまでは体など分かりにくい箇所への暴力だったため周囲も気付くことができません)

以前、一人暮らしを検討したこともあったが、自身がアルコール依存症の治療中だったこともあり叶わなかった経緯あり。また、本人としては暴力の事実を周囲に知られることで面倒なことや更に状況が悪化する恐れがあることから通報自体を拒んでいたが話し合う中で本人から納得を得た上で行政へ通報となる。

3 対策

福祉課担当者の協力を得て一人暮らしに向けて調整。

今後も安定的な就労継続のための通勤経路やたまに実家に帰ることなども含め地域を検討。事象が発覚してから一ヵ月足らずの8月26日より一人暮らしを開始している。

4 今後の対応について

現在はたまに実家に帰省することもあるが暴力は受けていないことを確認できており、今後も継続して状況確認を行いながら必要に応じて適宜対応していきます。その他、今のところ虐待等の相談や報告はありませんが今後も各メンバーの日々の様子の変化など見落とすことなく対応してまいります。

5 第三者委員より

遠藤慎太郎様

職員1人ひとりが自分事として意識がもてるようローテーションしながら研修受講していること、素晴らしいと思います。その成果が今回の迅速な対応に繋がったと思います。今後も迅速な対応を心がけ、利用者が暮らしやすい環境作りを担ってほしいと思います。

千田恵介様

虐待防止の研修会があり、虐待防止や接遇向上に繋がっていることと感じています。現状としましてはとても丁寧な状況把握であると感じました。そして利用者さんのことを理解する姿勢が素晴らしいと感じ、地域での生活が1ヵ月足らずで行えたのがとても良かったことだと感じました。丁寧な状況把握、早急な連絡のたまものだと思います。頭が下がります。今後の対応につきましてもフォローアップが素晴らしく利用者さんが安心して地域で暮らしていけることと思います。

千田譲子様

日々の対応、大変お疲れ様です。

報告書拝見いたしました。

メンバーさんの気持ちを尊重しながら、行政へ連絡をすることを当人と話し合わせ、いま無事に安全なところへ移られている状況に、安堵しました。

事業所としては厳しい状況下にあるのかもしれませんが、職員の皆さんが落ち着いて行動され、メンバーさんと一緒に歩かれているのが素晴らしいと思います。

当方にも、直接の相談は入っておりません。